



あかしや

～豊かなくらしを自ら創り出す子どもの育成～

山形市立第九小学校
令和4年12月9日 No.10
発行：校長 大沼清司
山形市馬見ヶ崎 2-5-1

いじめの矢と心 (12月7日の校長講話)

今日のお話は、「いじめの矢と心」というお話をします。

まずは、これがみなさん一人一人もっている「心」です。普段は目に見えませんが、今日見えるようにしました。そして、これがいじめの矢です。いじめにはどんないじめがあるのでしょうか。校長先生は、これからいろいろないじめの矢を心に刺します。

- ① この矢は、「机やノートに落書きをしたり、ものを取ったり隠したりする嫌がらせの矢」
- ② この矢は、「間違ったり失敗したりした時に笑ったり馬鹿にしたりするからかいの矢」
- ③ この矢は、「ねえねえ、〇〇ちゃんと話すのやめようと、急におしゃべりをやめたり、その場から離れたたり、無視したりする仲間外しの矢」
- ④ この矢は、「遊ぶふりをして叩いたり蹴ったりする暴力の矢」
- ⑤ この矢は、「死ね、殺すぞ、きもい、うざい、消えろなどの悪口の矢」

いじめられている人の心には、こんなふうにかくさんの矢が刺さっているのです。実際には、もっともっとたくさん矢が刺さっているのかもしれない。この心はこれからどうなるのでしょうか。もしかしたら心が引き裂かれたり、壊れたりしてしまうかもしれません。死んでしまう人、学校に来られなくなる人、家から出られなくなる人もいるのです。

こんなふうには、いじめの矢が突き刺さっている友だちがあなたのまわりにはいませんか？もししたら、このままにしておくのでしょうか。心が壊れてしまう前に、いじめの矢を抜かなければなりません。でも、いじめの矢は、いじめられている本人は抜くことができないのです。どうやったら抜くことができるのでしょうか。

それは、まわりの人が、「一人じゃないよ」「ぼくと一緒にいればいいよ」「大丈夫だよ、私がついているよ」「心配ないからね、味方だからね」と励ましてくれると、ようやくいじめの矢を抜くことができるのです。また、いじめをした人が反省をして、「ごめんなさい、もう二度としません」と心から謝ることもよいでしょう。そしていじめをやめるのです。

いじめの矢を全部抜くことができました。よかった。もし、自分の周りにいじめの矢が刺さっている友だちがいたら、やさしく声をかけ、励まして、いじめの矢を抜いてあげてください。

さて、もう一度、この心を見てください。いじめの矢が抜けた跡はどうなっていますか。まだ傷の跡が残っています。いじめの矢を全部抜いても、心の傷は残るのです。消えないのです。10年経っても、20年経っても、いじめられたことを忘れることはできません。だから、いじめは絶対に無くさなければいけないのです。

校長先生は、いじめをした人がこんなことを言っているのを聞きました。

「ぼくはただふざけてやっているだけだし、同じことを



自分がされても別に気にしなかったから、〇〇君がそんなに嫌だったなんて思わなかった。いじめだとは思わなかった。」と言うのです。みなさんはどう思いますか。

校長先生は、こう言いました。

「同じことを言ったりやったりしても、心に矢が刺さらない人もいる。ちょっとしか刺さらない人もいるし、グサグサ刺さる人もいる。自分はいじめているつもりでなくても、相手の心が傷つけば、いじめになってしまうんだ。だから、これをしたら、相手はどう思うかなと相手の気持ちになって考えることが大切なんだよ。」と言いました。

今日のお話はこれでおしまいです。人と仲良くすること、人の心を傷つけないことをたくさん学んで、思いやりの心があふれるあかしや学園にしましょう。

< 4年生の感想紹介 > 校長講話の後、4年生の書いた感想を担当の先生が見せてくれました。とてもうれしかったので、匿名でご紹介します。

わたしがいじめの矢と心の話聞いて思ったことは、いじめの矢がささってしまっても、だれかがやさしい言葉をかけて、いじめの矢をぬいてくれる人がいます。

そんな人は、いっぱい九小にいるし、わたしもいじめられている人にやさしい言葉をかけたいです。

一回ささった矢は、相手からはげましてもらったらぬけるけど、心のきずはささったらもう一生きえないことが分かりました。自分がされていやなことは、人にはやっちゃいけないのが大切だと思います。

わたしは、3年生の時、友達にいじめをしてしまって、おこられたことがありました。いじめをしていたときは、遊びだと思ってやっていたけど、「相手はいやな気持ちだったんだ」と、当時思いました。

そして、今日聞いて、「これからは、最初から相手の気持ちを考えよう」と思いました。お母さんからの言葉「お母さんたちがいなくなったら、友達が助けてくれるんだから、友達を大切にしなさい」という言葉を大切に、友達も大切にしたいです。

いじめの矢は一本だけじゃなく何本もあって、いろいろな人にささっていると思った。いじめの矢をぬくには、いろいろな人が声をかけたり励ましたり、いじめた人が反省してぬけると分かった。いじめの矢はぬけても、そのきずはずっとのこっているおることはないから、いじめられている人がいたら、声をかけたりしてあげたい。

心は、矢がたくさんささるとこわれたりしてしまうというのを聞いて、自分はやっていないか心配になりました。でも、もししていたら「ごめんね」と反省しようと思いました。

自分は一年生の時、少しいじめを受けていて、今は矢はささっていないけど、今でもどんなだったか覚えているので、「きず口はきえない」その言葉が残りました。